

## \*もしものときは？

### ○参加者の感染が疑われる場合

新型コロナウイルスの感染が疑われる参加者には、主催者にただちに相談した上で、速やかに所在地の「帰国者・接触者相談センター」へ連絡し、その指示に従うよう促しましょう。

### ○指導者の感染が疑われる場合

指導者本人またはスタッフ（アルバイト・ボランティア）に新型コロナウイルスの症状がある、もしくは症状がある人に接触した場合は、速やかに所在地の「帰国者・接触者相談センター」へ連絡し、その指示に従いましょう。

「帰国者・接触者相談センター」（24時間受付）

静岡市で発生した場合：054-249-2221

浜松市で発生した場合：0120-368-567

それ以外の市町で発生した場合：050-5371-0561

## \*「新型コロナウイルス接触確認アプリ」の紹介（登録推奨）

国の「新型コロナウイルス接触確認アプリ（COCOA）」に登録すると、陽性者と接触した可能性が分かり、保健所のサポートをいち早く受けることができるため、登録をお勧めします。

厚生労働省 HP：「厚生労働省 COCOA」とお調べください。

([https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/cocoa\\_00138.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/cocoa_00138.html))



## \*活動時に使える感染防止関連のグッズについて

□アルコール消毒液



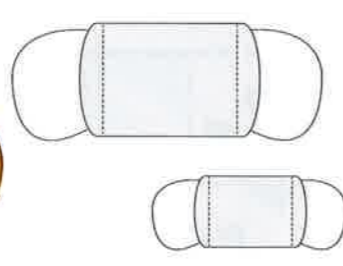
携帯容器に入れて持ち運びましょう。

□フェイスシールド



帽子につけられるタイプもあります。

□マスク



大人用と子供用を用意しましょう。

□非接触型  
体温計



□手袋



## Q & A

Q、参考になるガイドラインが知りたいのですが？

A、県のホームページ『森林内での活動における新型コロナウイルス感染者が発生した時の対応及び活動継続に関する基本的なガイドライン（発行元：（公社）国土緑化推進機構）』をご覧ください。

★本リーフレットは、県内で森づくり活動に取り組んでいる方々からのご意見等を頂きながら、「森林内での活動における新型コロナウイルス感染者が発生した時の対応及び活動継続に関する基本的なガイドライン（（公社）国土緑化推進機構発行）」や「自然学校等における新型コロナウイルス対応ガイドライン（公社 日本環境教育フォーラム、NPO法人 自然体験活動推進協議会、一社 日本アウトドアネットワーク発行）」などを参考に作成しました。

2020年9月発行

発行：静岡県くらし・環境部環境局環境ふれあい課

〒420-8601 静岡県静岡市葵区追手町9-6 TEL: 054-221-2848

森づくり活動の主催者の皆様へ

# 新型コロナウイルス感染防止に向けて 「ふじのくに新しい森づくり活動」のポイント

## ① はじめに

□静岡県のホームページより『静岡県新型コロナウイルス警戒レベル』を確認しましょう。警戒レベルを踏まえプログラム計画・実施を心掛けましょう。警戒レベルは毎週更新されるので、最新の情報を把握しておきましょう。



## ③ 準備

□感染防止のための関連グッズを用意しましょう。（マスク、消毒液、フェイスシールドなど）



□森林内など手洗いの機会が減少する活動場所では、手洗い用の水の用意や、アルコール消毒液の配布、もしくは参加者各自での準備をお願いします。

□使用する備品は各自用意し、共有することは控えましょう。また、やむを得ず共有する場合は使い捨て機器の併用、消毒などを考えましょう。

□参加者へ資料などを事前に配布し活動の感染防止対策について理解を促しましょう。



□体調がすぐれない場合等には欠席しやすいよう、事前に徴収した参加費は返金するなど、キャンセル条件の緩和を検討しましょう。

□もし感染者が確認された場合の連絡を円滑にするために、参加者の氏名、住所、緊急連絡先を把握し、名簿を作成しましょう。（接触確認アプリの活用を推奨）



## ⑥ 実施後

□使用した備品は消毒しましょう。使い捨てのものは、一つの袋にまとめるなど安全に廃棄してください。



チェック  
してね♪



## ② 計画

□活動時の参加者が大人数にならないように、少人数グループを基本とする分散した活動を計画しましょう。

□間隔をあけて活動が行えるように、活動スペースは広めに確保しましょう。（お互いの距離が2m以上とれるように）



□活動中に起こりえる“3密”（密集、密閉、密接）を想定し、それを避ける工夫をしましょう。



## ④ 活動直前

□静岡県ホームページより『静岡県新型コロナウイルス警戒レベル』の最新情報から行動制限などを確認し、参加者の受け入れの可否、開催の判断などをしましょう。

## ⑤ 実施中

□参加者の体調確認をしましょう。（体温測定や体調不良など）



□参加者に活動時の感染防止対策への協力をお願いしましょう。（家族を含む参加者との身体的距離の確保、マスクの着用、手洗い・消毒についてのガイダンスなど）



□指導者はマスクを着用しましょう。もしくは、十分な距離を確保して、フェイスシールドを着用し、インカムを使用しましょう。



□感染防止関連グッズも携行し、適宜使用しましょう。

□熱中症対策のため、野外では2m以上の距離を確保し、マスクをはずしましょう。その場合は、大きな声で話したり笑ったりしないように気を付けてください。



# 新型コロナウイルス感染防止に向けて「ふじのくに新しい森づくり活動」のポイント



## 植栽や下草刈りなどの整備活動

- 参加人数：大人数にならないようにしましょう。
- 激しい呼吸を伴う作業は行わないようにしましょう。基本的に野外での活動では2m以上確保し、マスクを外しましょう。ただし、近接して作業をする場合はマスクを着用しましょう。熱中症予防のために参加者の体調の変化に気をつけて、こまめに水分補給を行うように声掛けをまめに行ったり、休憩を増やすなどの工夫を心掛けましょう。



- 作業する際は、参加者同士2m以上の間隔を確保しましょう。



- 道具、消耗品、装備などは個人ごとに配布しましょう。または各人で準備をしてもらい、他者への貸し出しはしないようにしましょう。



## 自然観察会



- 参加人数：最大でも50人以下となるよう分散して実施しましょう。
- 少人数のグループとなるよう、指導員を配置しましょう。



- 家族を含む参加者同士の身体接触や近接を伴うプログラムは実施することを避けましょう。
- 大人数への解説や説明が必要な場合は、インカム（ヘッドホンとマイクが一つになっている機器）や拡声器を使用し、参加者同士が大声で会話したり、密集したりすることがないように配慮しましょう。



## 森づくり活動ごとの気をつけるポイント

### ブース出展

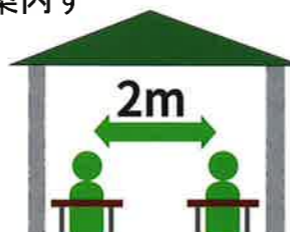
- 指導者またはスタッフが、ブースに立ち寄った参加者と接する場合は、その間に透明シートを設けましょう。



- パンフレットやチラシなどは、「ご自由にお持ち帰りください」といった表示で、不特定多数の人が触ることを避けましょう。配布物にはナンバリングして、希望者にお渡しするよう方式にすると良いでしょう。



- ブース内で、クラフトや作業体験などを行う場合は、参加者同士の距離を2m以上確保しましょう。また、待ち時間がある際は、待機場所でも間隔を空け、それを参加者にわかりやすく図示や案内するようにしましょう。



### 室内での木工・クラフト

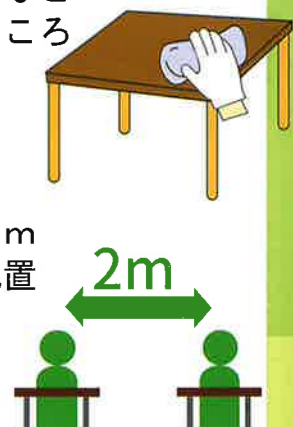
- 参加人数：会場の収容定員の半分にしましょう。



- 会場の窓や扉は開けて換気をしましょう。夏場は常に換気、冬場は定期的に換気をしましょう。



- 参加者同士の間隔が2m以上空くように席の配置を工夫しましょう。



- 使用する道具は各人に配布し、作業終了まで同じ参加者に使用してもらいましょう。また使用後は、適宜消毒しましょう。

### 熱中症対策について

- 森林内では2m以上の距離を確保し、マスクをはずして活動しましょう。



- 休憩は日陰など、涼しい場所でとり、無理のない活動を心がけましょう。



- こまめな水分補給を促しましょう。また、大量に汗をかいた場合は塩分も摂取しましょう。



### 食事・休憩について

- お互いが2m以上離れられるようなスペースを確保し、向かい合っでの飲食や会話は避けましょう。
- 大人数での休憩や食事は、時間をずらすことや換気などの対策をしましょう。
- 手作りの食事をする際は、食品を扱う人の健康管理と衛生管理（マスクや手袋着用など）や調理器具の消毒を徹底しましょう。また、配膳する時は個別に盛り付け、密接を避ける工夫をしましょう。
- 施設などで食堂を使う際は、その施設の基準に合わせて行いましょう。



### マイクロバスの利用

- バスでは窓を開けることやエアコンで外気を入れるなど、定期的な換気を促しましょう。
- バス内ではマスクを着用してもらい、大きな声での会話などは控えてもらいましょう。
- 体調が悪い場合は、すぐに申し出てもらうよう事前にアナウンスしましょう。



### 大人数があつまる場合



- 大人数があつまる際は、参加者同士2m以上の間隔を空けましょう。
- 集合写真などは家族やグループごとで撮影し、密接を避けましょう。